

2017年5月8日

### 朝礼の話 (2017年5月)

皆さんお早うございます。今年の大連休は、少しお天気が崩れる日もありましたが、全般に晴天で、最高気温も25度以上に上がり絶好の行楽日和となりました。皆さんもそれぞれにゆっくりとお休みを過ごされたことと思います。先週5日(金)が立夏で、暦の上では夏の季節に入りました。これから日中の気温はどんどん上がりますが、朝晩はまだ冷え込む日もあり、体調管理にも気をつける必要があります。大連休明け、気分を新たに、仕事に取り込んでください。

先月30日に、例年開催している懇親ゴルフ会を催し、30数名の取引先に参加して頂きました。絶好のゴルフ日和で、皆さんそれぞれにプレーを楽しんで頂き、無事にゴルフ会を終えました。日頃お世話になっている取引先と懇親、交流を深めることができ、大変に有意義な会を催せました。社内参加の皆さんの協力にあらためて感謝します。来年もより多くの方々の参加を得て、より一層盛大な会にしていきたいと思っております。

先月23日に実施されたフランスの大統領選挙の第1回投票の結果、独立系中道候補のエマニュエル・マクロン元経済産業デジタル相(39)が首位、極右政党の国民戦線(FN)のマリーヌ・ルペン党首(48)が2位となりました。いずれの候補も過半数を獲得できず、大統領の選出は、現地時間の昨日(7日)に実施された決選投票に持ち越されました。EUに対する立場が大きく異なる両候補が決選投票に進出し、フランス及びEUの将来の行方を争いました。現地時間の昨夜深夜、出口調査の結果を踏まえ、マクロン候補の勝利が公表されました。英国のEU離脱、米トランプ大統領の選出が示した反グローバリズム、大衆迎合主義(ポピュリズム)の大きなうねりがフランス大統領選挙にも及ぶのかどうか。既成政治、既成支配層への不満、拒否反応が大きくなり、新しい政治、政党、為政者を求めています。その動きがフランスにも及んでくるのかどうかを占う選挙となりました。英国民が抱くEU本部官僚機構への大きな不満、拒絶が英国のEU離脱を生んだといわれています。トランプ氏は既存のワシントンの政治家から国民に権力を取り戻すと演説しました。フランスでは、永く大統領を分け合ってきた共和党、社会党という左右の二大政党がともに第1回投票で敗北しました。マクロン氏は、オランダ社会党政権の経済閣僚を務めた後、1年前に中道路線を標榜し独立政党「前進」を設立しました。二大政党に不満を持つが極端な主張に偏りたくない有権者の心理をしっかりとつかみました。ルペン氏は、EUからの離脱や移民の大幅制限を唱え、移民やEU内の他国に仕事を奪われ、自分達は取り残されていると感じている低所得者層の高い支持を得て、決選投票に進みました。リベラルでグローバリズム志向のマクロン氏と国粋主義で保護主義志向のルペン氏とで決選投票が争われましたが、マクロン氏が勝利しフランス大統領の地位を勝ち取りました。フランスのEUからの分離は食い止められましたが、史上最年少大統領としてこれからどのようにフランス及びEUを導いていくのか、大戦後世界を統治してきた先進国の既存政治の枠組みを変える大きな流れを生み出すのか今後の成り行きが大変注目されます。以上